# 雪害の病院運営への影響　－リハビリテーション科の立場から－

風晴俊之[1)]　藤田知美[1)]　丸山巧[1)]　石森卓矢[1)]　美原盤[2)]

1）脳血管研究所美原記念病院　リハビリテーション科

2）脳血管研究所美原記念病院　神経内科

平成26年2月15日、関東地域は記録的大雪にみまわれた。群馬県南部の平坦地域でも73cmの積雪を記録した。この大雪により交通はほぼ完全に麻痺し、病院スタッフ、患者とも来院は困難な状況となり、リハビリテーション(リハ)を必要とする患者にもリハの提供は十分に行われなかった。リハ科の立場から今回の雪害の病院運営への影響をまとめたので報告する。

当院のリハ科では、一般病棟45床15名、回復期リハ病棟99床54名、障害者一般病棟45床13名、訪問リハ10名、それぞれ専従スタッフを配置している。出勤予定者数に対し出勤者数は､2月15日～18日までの4日間､一般病棟24.5/33名､回復期リハ病棟107/128.5名、障害者一般病棟21/25名であった。また、訪問リハは車での移動は困難であり、予定訪問件数に対するキャンセル数は72/119件であった。出勤したスタッフは、リハビリ実施時間を短縮し、女性スタッフは担当患者調整、男性スタッフは救急車受け入れのために除雪を行なった。またエレベーターの使用は禁止された。その結果、各部署のリハ予定保険請求額に対する算定できなかった額は、299.8/1023.1万円となった。

大雪対策の病院方針として、患者の受け入れ、スタッフの通勤を確保することが優先された。リハは毎日行なわれるものであり、振り替えることができない。そのため、保険請求額への影響は大きかった。